



TITLE:

# An example of non-Kaehler manifold which is a resolution of a ball-product cusp singularity

AUTHOR(S):

尾形, 庄悦

---

CITATION:

尾形, 庄悦. An example of non-Kaehler manifold which is a resolution of a ball-product cusp singularity. 数理解析研究所講究録 1988, 639: 172-175

ISSUE DATE:

1988-01

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/100167>

RIGHT:

# An example of non-Kaehler manifold

which is a resolution of a ball-product cusp singularity

東北大理 尾形庄悦 (Shoetsu Ogata)

1.  $B_{s+1} = \{(z_1, \dots, z_{s+1}) \in \mathbb{C}^{s+1}; \sum_{i=1}^{s+1} |z_i|^2 < 1\}$  を  $s+1$  次元複素単位球とする。 $B_{s+1}$  は第2種 Siegel 領域  $D_{s+1} = \{(z, u_1, \dots, u_s) \in \mathbb{C}^{s+1};$   
2  $\operatorname{Im} z - \sum_{i=1}^s |u_i|^2 > 0\}$  と双正則である。 $D_{s+1}$  は  $\mathbb{P}_{s+1}(\mathbb{C})$  の中に  $(z, u_1, \dots, u_s) \mapsto [z:u_1:\dots:u_s:1]$  により埋込めて、境界点  $[1:0:\dots:0]$  をもつ。直積  $(D_{s+1})^r$  も  $\mathbb{P}_{s+1}(\mathbb{C})^r$  の中で境界点  $\infty = [1:0:\dots:0]^r$  をもつ。

定義 正規孤立特異点  $(X, p)$  が ball-product カスプ特異点であるとは、特異点  $((D_{s+1}^r \cup \{\infty\})/\Gamma, \infty)$  と同型になるときをいう。ここに、 $\Gamma$  は  $\infty$  を保つような  $\operatorname{Aut}(D_{s+1}^r)$  の離散部分群である。

このような特異点を以下に構成する。 $F$  を総実  $r$  次代数体、 $K$  を  $F$  の総虚二次拡大とし、 $K$  の  $\mathbb{C}$  への埋込みを  $\sigma_1, \sigma_2, \dots, \sigma_r, \bar{\sigma}_1, \bar{\sigma}_2, \dots, \bar{\sigma}_r$  とし、 $\operatorname{Gal}(K/F) = \{\alpha, \rho\}$  とする。 $N$  を  $F$  の階数  $r$  の自由  $\mathbb{Z}$ -部分加群とし、 $T$  を  $K$ -係数の  $s$  次正定行列で、 ${}^t T = T$ ,  $T^{\rho} = -T$ ,  $-\sqrt{-1} T_i(T)$  が正 Hermite 行列となるものとする。このとき、

$T$  は歪  $p$ -対称形式  $E: K^s \times K^s \rightarrow F$  を  $E(l_1, l_2) = \text{trace}_{K/F}(l_1 T l_2^p)$  で定める。  $M$  は  $K^s$  の階数  $2rs$  の自由  $\mathbb{Z}$ -部分加群で、すべての  $l, l' \in M$  に対し  $E(l, l') \in N$  を満たすものとする。更に、 $\Gamma$  は  $K$  の単数群の有限指数の自由部分群で、  $M$  と  $N$  とを保つものとする。ここで、 $\Gamma$  は相対ノルム  $\text{norm}_{K/F}$  を通して  $N$  に作用するを考える。

埋込み  $K \ni x \mapsto \sigma(x) = (\sigma_1(x), \dots, \sigma_r(x)) \in \mathbb{C}^r$  により、  $M$  は  $\mathbb{C}^{rs}$  の格子、  $N$  は  $\mathbb{R}^r$  の格子とみなす。 Hermitian 形式  $H: M_{\mathbb{R}} \times M_{\mathbb{R}} \rightarrow N_{\mathbb{C}}$  を  $H(l_1, l_2) = E(l_1, \sqrt{t} l_2) + \sqrt{t} E(l_1, l_2)$  で定めると、  $H$  は

(i)  $H(l, l) \in C_+$   $\forall l \in M_{\mathbb{R}}$ ,  $C_+ = (\mathbb{R}_{>0})^r$  は  $N_{\mathbb{R}}$  内の錐。

(ii)  $H(l, l) = 0$  ならば  $l = 0$ 。

を満たす。  $\mathcal{O} = \{(\varepsilon, u) \in N_{\mathbb{C}} \times M_{\mathbb{R}}; 2 \text{Im } \varepsilon - H(u, u) \in C_+\}$  とおくと、  $\mathcal{O}$  は  $(B_{\text{SH}})^r$  と双正則となる。一方、  $\text{norm}_{K/F}(\Gamma)$  は  $F$  の単数群の指数有限な部分群だから、超曲面  $\{(x_1, \dots, x_r) \in N_{\mathbb{R}}; \prod_{i=1}^r x_i = 1\}$  の格子である。従って、  $\Gamma$  の  $C_+/\mathbb{R}_{>0}$  への作用は固有不連続かつ固定点なしであり、その商空間はコンパクトである。

以上により  $(N, C_+, M, \Gamma)$  は  $[O_2]$  の §1 の条件を満たすことが判る。正規孤立特異点  $(V, p)$  が得られる。構成から、

$V \setminus \{p\} \cong \mathcal{O} / N \cdot M \cdot \Gamma$  だから、  $(V, p)$  は ball-product カスプ特異点である。

2.  $N, M, H, \Gamma$  を §1 と同じものとする。実解析的写像

$\tilde{\Phi}: N_{\mathbb{C}} \times M_{\mathbb{R}} \rightarrow N_{\mathbb{R}}$  を  $\tilde{\Phi}(z, u) = 2 \operatorname{Im} z - H(u, u)$  により定義する。

$\tilde{\Phi}$  は  $M, N$  の作用で不変だから,  $\Phi: T_N \times M_{\mathbb{R}} \rightarrow N_{\mathbb{R}}$  と  $\bar{\Phi}: (T_N \times M_{\mathbb{R}})/M \rightarrow N_{\mathbb{R}}$  を誘導する。ここに,  $T_N = N_{\mathbb{C}}/N$  は  $r$  次元代数トラス

$(T_N \times M_{\mathbb{R}})/M$  はアベル多様体  $A = M_{\mathbb{R}}/M$  上の主  $T_N$ -束である。

$\bar{\Phi}$  は  $\Gamma$ -同変である。 $C_{\pm} = (\mathbb{R}_{>0})^{r-1} \times \mathbb{R}_{<0}$  を  $N_{\mathbb{R}}$  の開錐とする。

$\Delta_{\pm}$  を  $C_{\pm} \cap N$  の凸包の境界の多面体分割から得られる非特異  $\Gamma$ -admissible 扇とする。 $\Delta = \Delta_+ \cup \Delta_-$  とおく。扇に対応するトラス埋込みを  $T_N \operatorname{emb}(\Delta)$  とする。 $T_N$ -束に付随する束

$$Z := (T_N \operatorname{emb}(\Delta) \times M_{\mathbb{R}})/M$$

を作り,  $\bar{\Phi}$  を  $Z \rightarrow M_{\mathbb{C}}(N, \Delta)$  に拡張する。 $M_{\mathbb{C}}(N, \Delta)$  は角付き多様体である。 $C = (\mathbb{R}_{>0})^{r-1} \times \mathbb{R}$  とおき,  $\hat{C}$  を  $M_{\mathbb{C}}(N, \Delta)$  内での  $C$  の閉包の内部とする。 $U := \bar{\Phi}^{-1}(\hat{C})$ ,  $\hat{Y} := U \setminus \bar{\Phi}^{-1}(C)$  とおく。

$\hat{Y}$  は 2 つの連結成分  $\hat{Y}_{\pm} = \hat{Y} \setminus \bar{\Phi}^{-1}(C_{\mp})$  に分れる。

補題 2.1.  $\Gamma$  の  $U$  と  $\hat{Y}_{\pm}$  への作用は固有不連続かつ固定点なしであり, 商空間  $X = U/\Gamma$  はコンパクト,  $Y_{\pm} = \hat{Y}_{\pm}/\Gamma$  は  $X$  上の因子である。 $Y = \hat{Y}/\Gamma = Y_+ \cup Y_-$ .

補題 2.2.  $\pi_1(X) \cong M \rtimes \Gamma$ ,  $H^1(X, \mathbb{Z}) \cong \Gamma$ .

補題 2.3. (i)  $H^0(X, \Omega_X^1 / \log Y) = 0$ . 従って,  $H^0(X, \Omega_X^1) = 0$ .

(ii)  $\dim H^1(X, \mathcal{O}_X) \geq r-1$ .

定理 上で構成したコンパクト複素多様体  $X$  は  $\eta$ - $\tau$ -計量を持ち得ない。更に、因子  $Y_i$  は正規孤立特異点  $(V, p)$  につづれる。

命題 2.4.  $K_X = -Y$ .

命題 2.5.  $Y = \bigcup_{i \in I} Y_i$  を既約成分への分解とすると、 $X$  の Chern 類は

$$c(X) = \prod_{i \in I} (1 + c_1(\mathcal{O}_X(Y_i)))$$

と書ける。

系  $c_k(X) = 0$  ( $k \geq r+1$ ). 特に, Euler 数  $e(X) = 0$ .

命題 2.6.  $\chi(\mathcal{O}_X) = 2^{-r(s+1)} \tau(X)$ . ここに  $\tau(X)$  は  $X$  の指数, つまり,  $H^{r(s+1)}(X, \mathbb{Z})$  上にカップ積で決まる 2 次形式の指数である。

## 参考文献

- [O] S. Ogata, Infinitesimal deformations of generalized cusp singularities, Tohoku Math. J. 39(1987), 237-248.
- [S] G.K. Sankaran, Higher dimensional analogues of Inoue-Hirzebruch surfaces, Math. Ann. 276(1987), 515-528.